

大学史展示室 特集展 5

戦争と大学

会 期 平成18年7月3日(月)～9月29日(金)

場 所 駒澤大学禅文化歴史博物館2階 大学史展示室

主 幹 駒澤大学禅文化歴史博物館大学史資料室

昭和6(1931)年の満州事変以降、日本全体が徐々に戦時色に染められていきました。戦局の悪化にともない、昭和18年には学生を軍需工場の労働力として登用する「学徒動員」、学業半ばの学生を戦地に送り込む「学徒出陣」が実施され、授業も出来ない状態となっていました。

駒澤大学の学生も、他の大学同様に、軍需工場や激戦地に動員されました。また、戦争の犠牲になったのは、学生だけではありませんでした。同年には校舎の一部が軍需省の施設として徴用されました。

今回、戦時下の駒澤大学の様子をよく物語る資料や写真を展示します。戦争と駒澤大学について学んでいただく機会としていただければ幸いです。



昭和12(1937)年 校庭での軍事教練



昭和17(1942)年—同19年
柔剣道の授業用手袋。

I 学徒動員と軍事教練

昭和12(1937)年頃には、大学の掲示板に教職員・学生の出征を祝すポスターや軍隊への志願を募るポスターが掲示され、軍事教練や勤労働員も日常的に行われるようになりました。

【展示資料】

I-1 勤労奉仕の告示 昭和19(1944)年

5月1日から3ヶ月間の北辰電気製作所への学徒動員を伝える。

I-2 ゲートルと柔剣道手袋 昭和17(1942)年—昭和19(1944)年

愛知県 榊原克巳氏寄贈

戦時中、駒澤大学に在学していた愛知県の榊原氏が使用していたゲートルと柔剣道の授業用手袋。

II 学徒出陣と学生

戦局の悪化にともない戦地での兵力が激減し、昭和18(1943)年、政府は全国の学生を激戦地におくる「神宮外苑学徒壮行会」を挙行了しました。この後、駒澤大学の学業半ばの多くの学生が、激戦地に赴きました。

【展示資料】

II-1 徴兵検査終了学生への告示 昭和19(1944)年

学生に徴兵検査結果の届け出を指示する掲示。

II-2 寄せ書きされた日章旗 昭和18(1943)年頃 長野県 中西道瞻氏寄贈

学徒出陣で出征する中西氏のため、本学の教員であった衛藤即応、澤木興道、榊林皓堂が寄せ書きした日章旗。



昭和12(1937)年 小林君出征



昭和18(1943)年 寄せ書きされた日章旗